

21. 歯学部

(1) 歯学部の教育目的と特徴	・ ・ ・ ・ ・	21-2
(2) 「教育の水準」の分析	・ ・ ・ ・ ・	21-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	・ ・ ・ ・ ・	21-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	・ ・ ・ ・ ・	21-10
【参考】データ分析集 指標一覧	・ ・ ・ ・ ・	21-12

(1) 歯学部の教育目的と特徴

1. 学部の構成

歯学部は歯学科のみからなる学部構成となっている。

2. 教育目的

高度な専門知識と臨床能力を備えた歯科医師の育成はもとより、高い倫理観、豊かな人間性、広い国際性も有した歯科医師あるいは歯学研究者を養成し、以って国民の口腔機能の改善と構築に幅広く貢献し、かつ国際的にも活躍できる指導的人材を育成する。

3. ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

「九州大学教育憲章に基づいて策定されたカリキュラムに則り歯科医師・歯学研究者となるために必要な学習目標を達成し、別に示した求められる資質をすべて有する者に歯学士の学位を授与する」という方針をディプロマ・ポリシーとしている。これを達成するため、アウトカム基盤型教育における卒業時に求められる能力の概要を定め、カリキュラム・ポリシーとしている。

4. 教育目的を達成するための教育プログラム並びにカリキュラムの特徴

従来型の積み上げ式のカリキュラムに横串を通す統合科目として歯学総論を設定し、新しい臨床実習カリキュラムを中心として、講義から臨床実習、臨床研修まで一貫した教育体制を構築している。また、研究者養成（大学院への進学促進）を目的として、アーリーエクスポージャーやリサーチエクスポージャーなど、早期研究体験学習を積極的に実施した。さらに、社会のニーズに対応した教育課程を編成・実施するために、医療系統合教育センターに参画して教育資源を共有しながら医療系統合教育科目を行っている。

5. 教育プログラム・カリキュラムの効果を最大化するための学習方略の特徴

本学全学におけるアクティブ・ラーナー養成の目標に沿って Team-Based Learning (TBL) や Problem-Based Learning (PBL) 等の教育方略を積極的に取り入れ、学生の自律的学習能力を向上させると共に、学生の自主的学習を促進することを目的に、IT を利用した e-learning システムを構築して授業時間外でも学習できるようにしている。さらに基幹教育と一体化した英語学習を充実させ、専攻教育においても e-learning による英語学習を推進している。

6. 国際交流

部局間交流協定による、アジア（韓国やインドネシア）の大学と学生交流・学生派遣を実施している。加えて米国へも学生派遣を行い、国際的視野の醸成に努めている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 7321-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 7321-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 7321-i3-1）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 7321-i3-2）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 7321-i3-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 歯科医師となるために必須の専門科目を柱として、基幹教育から継続し、アクティブ・ラーナー育成を目標の一つとした「歯学総論」や「医療系統合教育科目」を配置し、各専門科目を統合した総合的な学習を推進している。また、プロフェッショナリズムを身に付けた全人的な医療を実施できる歯科医療人や歯学研究者を育成するための工夫により、教育課程の体系性が確保されている。

講義・実習・演習などをバランスよく配置し、e-learning 教材等を用いた学生の自主学習を促す工夫をしている。また、午前中には講義科目を配置し、午後から演習や実習など比較的長時間に渡って授業時間を設定する科目を配置している。[3.1]

九州大学歯学部 教育活動の状況

- 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革－死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築－」（平成24～30年度）に連携大学として参画し、「口腔健康科学特論」の講義を実施するとともに、周術期口腔機能管理の診療・教育体制の充実化に取り組んだ。[3.2]
- 総合大学としての多様性を背景に、特定の学部を指定せず学際的な学びを展開する総合科目を開いている。（別添資料 7321-i3-4）[3.3]
- カリキュラム・ポリシーに沿って全学教育と専攻教育を体系化している。医療人となるために必要な「生物学」、「化学」、「統計学」等の科目に加え、「倫理学」や「心理学」などの履修を求め、全学教育において、医療人養成の第一歩となる教養や知識を身につける教育を行っている。また、専門教育で培った知を分野横断的に広げる「高年次基幹教育科目」を開いている[3.4]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 7321-i4-1）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料（別添資料 7321-i4-2、7321-i4-3、7321-i4-4）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 7321-i4-5）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 なし）
理由：該当がないため
- ・ 指標番号5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 基幹教育では、文理融合で学際的テーマについて協働学習を行うPBL科目である「課題協学科目」を全学必修科目として開講している。

（別添資料 7321-i4-5、7321-i4-6、7321-i4-7）

基幹教育と連携しながら、指導的歯科医師及び歯科医学研究者となるために必須のアクティブ・ラーナーとしての生涯学習能力を養成するために、カリキュラムマップに沿って科目を適切に配置し、能動的学習方略（PBLやTBL等）や2学年屋根瓦方式（3、4年生および5、6年生）の授業をバランス良く組み合わせるカリキュラムを組み立てている。

近年、医療系教育で推進されているアウトカム基盤型学習へのカリキュラム改革を実施し、ルーブリックなどを用いて学習目標を明確化し、全ての学生がディプロマ・ポリシーに示した能力を身につけられるように体系的な教育課程の編成を行っている。

さらには、超高齢社会に対応する緊密なチーム医療を目指し、医療系学部との

統合科目を充実させ、プロフェッショナルリズム教育の充実により、医療人としての深い知識や技能の習得に加え、倫理観の醸成を行っている。

臨床実習では、臨床実習体制見直しWGを設置し、診療参加型実習を充実させた。

(別添資料 7321-i4-8) また、研究者養成(大学院への進学促進)を目的として、「アーリーエクスポージャ」や「リサーチエクスポージャ」など、早期研究体験学習を積極的に実施し、学部学生の研究マインド醸成に努めている。

((再掲) 根拠資料 7321-i3-3) [4.1]

- 学内共同教育研究施設である医療系統合教育研究センターと連携した「医療系統合教育科目」の中で、学内共同教育研究施設であるクリニカルスキルトレーニングセンターを利用した少人数演習を実施し、チーム医療の実践的学修を行っている。[4.2]
- クリッカーやWeb学習システムを利用し、アクティブ・ラーナー養成を推進している。また、ICTを利用したe-learningシステムを構築して授業時間外でも学習できるようにし、学生の自主学習を促す工夫を行っている。[4.3]
- 医療系統合教育研究センターには、兼任教員として歯学部教授2名が参加しており、医歯薬合同医療系統合教育科目の計画や実施に関わり、プロフェッショナルリズム教育を充実させている。[4.4]
- 学部4年生から5年生にかけて、「アーリーエクスポージャ」、「リサーチエクスポージャ」という研究体験科目を配置し、研究倫理教育を充実させている。[4.5]
- 「臨床シミュレーション実習」においては、診療室を模倣したクリニカルスキルトレーニング部門において診療行為のシミュレーションを行っており、臨床専門科目で培った理論と歯科診療の架橋を図る工夫を行い、熟練者疑似体験による歯科診療の基本技術の習得という成果を上げている。[4.6]
- いくつかの専門教育科目において、「学習発表会」を授業後半に取り入れ、種々のテーマについて学生自身によりその学修成果をプレゼンテーションさせている。[4.7]
- 基幹教育院附属次世代型大学教育開発センターは、FD開催等により新たな科目・教育手法を開発・啓発している。(別添資料 7321-i4-9) [4.0]

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料(別添資料 7321-i5-1)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料(別添資料 7321-i5-2)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料(別添資料 なし)

理由: 歯学部では実技を含む共用試験の受験が必須となっており、また、歯科医師国家試験を受験するため、該当者がいない。

九州大学歯学部 教育活動の状況

- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料
(別添資料 7321-i5-3)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 履修指導やコース説明を適切な時期に行い、課題解決型学習法 (TBL 等) を採用している科目については、歯科医学教育学分野がガイダンスを担当している。学習支援については、一般的な学習相談は担任が電子メールや面談によって実施し、留年生は学年担任が替わるため、担任間で修学カルテ上の記録等も含めて引き継ぎを行い、年度当初に歯科医学教育学分野担当教授と各担任が必ず面談を実施している。((再掲) 根拠資料 7321-i5-1)

学年担任制を取り、キャンパスライフ健康科学センターとの連携も取りながら履修に問題がある学生の修学支援を実施している。修学支援の記録を教員間で共有するために修学カルテを作成している。修学カルテでは、学生の精神医学的症状を鑑みて、授業参加に配慮すると共に、教員間で情報共有している。

(別添資料 7321-i5-4) [5.1]

- 振り返りや将来の目標設定を通してキャリアに目を向けさせる「初年次必修科目基幹教育セミナー」を開いている。(別添資料 7321-i5-5~6) [5.3]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準 (別添資料 7321-i6-1)
- ・ 成績評価の分布表 (別添資料 7321-i6-2)
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (別添資料 7321-i6-3)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 基幹教育では成績評価はルーブリックに基づくものとし、シラバスで評価方法 (含ルーブリック) を公開している。

((再掲) 根拠資料 7321-i5-6、別添資料 7321-i6-4)

専門科目においても、成績評価は科目ごとにルーブリックに基づいて行っている。さらには、単位認定だけではなく GPA を用いた評価も行っており、各学年 GPA2.0 以上を進級要件としている。歯学部では、教授 5 名、准教授以下の教員 4 名よりなる学務委員会を設置し、学部教育関連全般の実務的問題を検討しており、成績評価基準に基づいて進級判定も行っている。

(別添資料 7321-i6-5~6)

第3期中期目標期間における歯学共用試験（CBT）の合格率は94.0%、歯学客観的臨床能力試験（OSCE）の合格率は100%となっている。

（別添資料 7321-i6-7） [6.1]

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 7321-i7-1、別添資料 7321-i7-2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料

（（再掲）別添資料 7321-i7-1～2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 卒業判定は5年生～6年生の臨床実習修了判定および専門科目の履修状況に基づいて、学務委員会での審議を経て、教授会にて最終判定を行っている。その際、認定単位数だけではなく、GPA2.0以上を基準としている。

（（再掲）根拠資料 7321-i6-5）

臨床実習修了判定にあたっては、すべての診療科目において合格基準を満たすことを必須としており、臨床実習専門委員会、学務委員会での審議を経て、教授会にて最終判定を行っている。[7.1]

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 7321-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 7321-i8-2）
- ・ 指標番号1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 九州大学歯学部では、学力に優れていることに加え、九州大学教育憲章に基づき、秀でた人間性、社会性、国際性を有し、医療福祉の観点から奉仕精神や利他主義に基づく高い倫理観を有し、チーム医療や課題探求型チーム学習のチームの一員として協調性の高い行動を取り、自律的な学究を指向する人材を求めている。そのため、一般入試、AO入試、私費外国人入試を行っている。一般入試では、教

九州大学歯学部 教育活動の状況

育課程に適応することができる多様な価値観をもった人材が選抜できるよう、学力を主たる判断基準として選抜を行ってきたが、歯学部アドミッションポリシーに則り学力に加え高い倫理観や優れたコミュニケーション能力、共に学ぶ者との高い協調性を兼ね備えた人材の選抜を目的として令和2年度入試から入試改革の一環として前期日程入試に面接を導入した。（別添資料 7321-i8-3）

A0入試では、優れた国際性、秀でた学力や論理的思考力と共に、歯科医療に対する使命感、探求心、ならびに生命体への関心と深い愛情などの医療人・研究者としての高い資質を持つ者を選抜している。私費外国人入試では、高い学力と共に国際通用性を持った外国人を選抜している。[8.1]

- 平成28年度から平成31年度の入試倍率は2～4倍と比較的良好であり、平成31年度を除き、毎年定員の確保ができています。平成31年度については、次年度の令和2年度入試から実施方法に変更が加えられることが公表されており、その影響を受けた可能性があります。[8.2]

<選択記載項目A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（（再掲）別添資料 7321-i4-5）
- ・ 指標番号3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 正課の授業外での自主的な英語学習のサポートを目的として、基幹教育院が設置したSALC(Self-Access Learning Center)を本学部生が利用できるようにしている（別添資料 7321-iA-1）。また、私費外国人留学生とともに多様な文化を受け入れ、日本人及びネイティブ教員による歯学英语の授業や国際水準の教育課程を編成し、歯学部生の国際通用性を高める工夫を行っている。これらの教育成果の実践の場として、韓国釜山大学との学生交流やインドネシアガジャマダ大学サマースクールへの学生派遣などのプログラムを用意している（別添資料 7321-iA-2～3）。[A.1]

<選択記載項目B 地域・附属病院との連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成30年度より、福岡歯科大学と協定を結び、臨床実習における相互訪問実習を行ない、それぞれの臨床実習において不足する実習を補完している。（別添資料 7321-iB-1） [B.1]

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- ファカルティディベロップメント（FD）を年1～2回開催し、教育の質の向上を図るとともに、学生による教員の授業評価を3年毎にすべての科目について行い、その結果を教員にフィードバックしている。（別添資料 7321-iC-1） [C.1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目 1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7321-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7321-ii1-2）
- ・ 指標番号 14～15、17～20（データ分析集）
- ・ 指標番号 16（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7321-ii1-4）
- ・ 歯学課程卒業者の歯科医師国家試験合格率（厚生労働省公表）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 標準年限内での卒業率は 70%～80%であるが、近年は少し低下傾向にあるため、その改善策を検討している。[1.1]
- 歯科医師国家試験合格率は常に上位を維持している。
(別添資料 7321-ii1-3) [1.2]

<必須記載項目 2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 進路の状況としては、歯科医師免許を取得した者の 100%が研修歯科医として就職している。研修先は、主に九州大学病院であるが、その他は東京、大阪を含めた特定機能病院の歯科部門や国立大学附属病院であり、九州大学歯学部卒業生の能力の高さが評価されていると考えられる。[2.1]

<選択記載項目 A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 7321-iiA-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成 28 年度～30 年度卒業予定者から臨床実習終了後の意見聴取を行い、歯科医療人に必要な知識・技能・態度の習得度や臨床実習に対する満足度等についての回

答を得ている。（（再掲）別添資料 7321-iiA-1）

平成 28 年度～30 年度卒業予定者を対象とした臨床実習終了後アンケートでは、歯科医療人養成のために必要な知識・技能・態度について、臨床実習が能力獲得の場となっていることが示されている。歯科臨床技能において頻度の高い「保存・補綴治療」に関しては約 60%以上の満足度があり、また、「医療面接」「患者・同僚・指導歯科医とのコミュニケーション」に関しては約 70%以上の満足度があったとの回答を得ている。臨床実習に重要な「自験症例」の提供については、平成 29 年度、平成 30 年度において約 50%の満足度の回答を得ており、平成 28 年度と比較して上昇した。各専門分野の指導評価（5 段階評価）は平均 3.8 以上の評価を得ている。

[A. 1]

<選択記載項目 C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 7321-iiC-1）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成 28 年度～30 年度卒業生が歯科医師臨床研修を行う協力型研修機関の指導歯科医から成績評価と意見聴取を行い、歯科医師としての知識・能力（技能）・態度についての回答を得ている。（（再掲）別添資料 7321-iiC-1）

平成 28 年度～30 年度における本学卒業生の卒後歯科研修期間中の研修の進行について適切な評価を得ている。各年度の知識・能力、技能・態度に対する評価結果（5 段階評価）は全ての項目において、4.25 以上の評価を得ている。特に「患者、家族への思いやり」や「上司、同僚、他の職員との協調性」の評価は高く、年度によっては 5.0 の評価を得ている。[C. 1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※ 部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。